

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年2月18日（水）

2 確認箇所

J7タンクエリア北側、H8北タンクエリア、H1タンクエリア西側
(図1)

3 確認項目

処理途上水移送配管新設工事の状況

4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所では、多核種除去設備等で処理した水（以下「ALPS処理水等」という。）をタンクに貯留している。

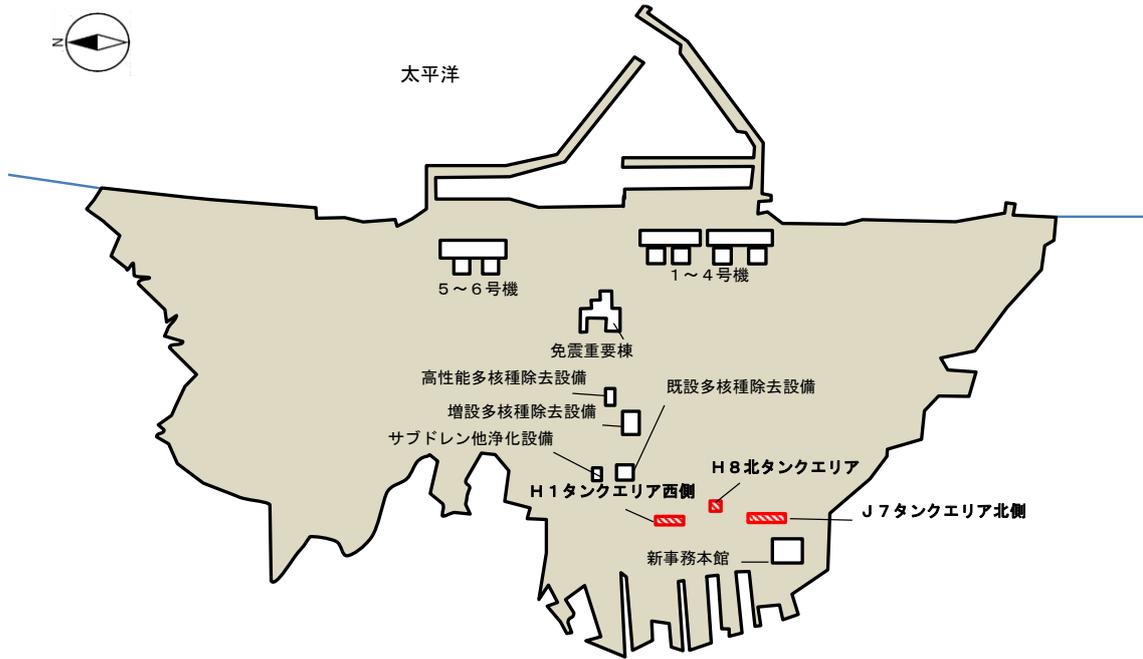
現在、福島第一原子力発電所で貯留されているALPS処理水等のうち、約7割は国が定める放出基準値を超過している水（以下「処理途上水*」という。）であり、二次処理が必要である。

東京電力では、処理途上水の二次処理を安定的に実施するため、処理途上水を移送するための配管（以下「処理途上水移送配管」という。）の新設を計画している。

今回は、処理途上水移送配管の敷設工事の状況を確認した。併せて、処理途上水の移送先として使用することが計画されているタンク（以下「処理途上水受入貯槽」という。）の状況を確認した。

- ・ J7タンクエリア北側では、処理途上水移送配管の敷設に伴う架台設置作業が実施されていた。（写真1）
- ・ また、同エリアにおいて、道路下への処理途上水移送配管の敷設に伴い、U字溝の設置作業が実施されていた。現場確認時には、バックホーを用いた部材の吊り上げ作業が行われており、玉掛け作業においては、玉掛け者、合図者及びバックホー操作者が連携するとともに監視人が配置され、安全に作業が進められていた。（写真2）
- ・ H1タンクエリア西側では、架台の設置は完了していたものの、配管の敷設は未実施であった。（写真3）
- ・ 処理途上水受入貯槽として使用することが計画されているH8北タンクエリアにある5基のタンクには、現在、ストロンチウム処理水（ALPS処理前水）等が貯留されている。タンク表面にわずかに錆の付着が認められたものの、確認した範囲において、設備（タンク、配管及び弁）の機能に影響を及ぼすような異常は認められなかった。（写真4）

※福島第一原子力発電所で発生した汚染水をALPS等で処理した水のうち、トリチウムを除く放射性核種の告示濃度比総和が1以上の水。海洋放出する前にALPS等で再度処理（二次処理）することが必要な水。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
架台設置作業の状況



(写真2)
U字溝の設置作業の状況



(写真3)
H1タンクエリア西側における架台
の設置状況



(写真4)
H8北タンクエリアの状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。